

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 学ぶ喜び、わかる喜びを体感し生涯にわたって学び続ける態度を育成する
- 2 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する
- 3 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する

2 中期的目標

- 1 基礎学力の向上
 - (1) 基礎学力の向上と資格取得
 - ア 生徒の学力差が大きいので、個々に対応した基礎学力確保のための教育課程を編成する。
 - ・ティームティーチング、習熟度別授業や補習講習を行い、個々の生徒に対応した学習指導を実践する。
 - ・わかる授業づくりを基本とし、教員全体の授業力向上を図る。
 - ※授業アンケートの項目「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている」について、平成 28 年度には 3.4 ポイントとする。(満点は 4、平成 25 年度は 3.24)
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率(平成 25 年度は 63%)を毎年 75%以上維持する。
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率(平成 25 年度 89.5%)を平成 28 年度には 100%にする。
 - イ 資格取得の奨励と支援
 - ・専門高校の特色を生かし資格取得に組織として支援体制を充実させる。
 - ・資格取得を目標として努力すること、合格して自信を持つことを生徒に体験させる。
- 2 安全で安心な学校づくり
 - (1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る。
 - ア 教育相談体制の確立
 - ・生徒一人ひとりに寄り添い、生徒と人間関係を築き生徒理解を深める。
 - ・支援コーディネーターを中心に支援学校との連携を図る。
 - ・ICTを活用して生徒情報を一元化して共有を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率(平成 25 年度は 65%)を毎年 70%以上維持する。
 - (2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。
 - イ 志学、道徳、キャリア教育の実施
 - ・あいさつ運動、地域での清掃活動などを通して社会人としてのマナーを養う。
 - ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内体制の整備
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率(平成 25 年度は 63%)を毎年 4%上げ、平成 28 年度には 75%にする。
 - ※卒業生のうち、進路未定者数 3 以下の維持
 - ウ 行事等を通して、自主自立の精神を養うとともに達成感を持つことにより、自己肯定感を高める。
 - ・体育大会や文化祭等の行事の活性化
 - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率(平成 25 年度は 67%)を毎年 3%上げ、平成 28 年度には 76%にする。
 - (3) 中途退学防止および原級留置の減少
 - エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底
 - ・出身中学校、前籍校との連携
 - ・懇談、家庭訪問等による家庭との連携
 - ・「教科指導」＝「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。
 - ※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。
 - ※当年度入学者の進級率 50%以上の維持
 - ※授業アンケートの項目「授業中は進んで学習や実習に取り組んだ」について、平成 28 年度には 3.5 ポイントとする。(満点は 4、平成 25 年度は 3.17)
- 3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上
 - (1) 学校が直面する課題に対して、迅速な意思決定と効率的な運営をめざす。
 - ア 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営の定着をめざす。
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」について、肯定的回答率(平成 25 年度 65%)を毎年 3%上げ、平成 28 年度には 74%にする。
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」について、肯定的回答率(平成 25 年度 85%)を、平成 28 年度には 95%にする。
 - (2) 開かれた学校づくり
 - イ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施
 - ウ 中学生およびその保護者や在校生および保護者のニーズに対応した Web ページ作り
 - (3) 教職員の資質向上
 - エ 学校教育目標に向け、教員集団が協働体制を確立し、一丸となって取り組む。
 - オ 初任者研修を兼ねた教職員研修の実施とミドルリーダーの育成
 - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」について、肯定的回答率(平成 25 年度 65%)を平成 28 年度には 75%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容はわかりやすい」の肯定率(H25:63%→68%)は 5%向上しているが、授業評価「授業を受けて知識や技能が身に付いたと感じている」は(H25:3.24→2.83)と大きくダウンした。授業が落ち着き、教員はわかりやすい授業に取り組んでいるが、生徒の求めるレベルが上がっていることに対応していないことが課題として浮かび上がった。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率(H25:65%→66%)は目標の 70%に届かず現状維持。「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率(H25:63%→59%)が 4 ポイント下がる。総合的な学習等でキャリア教育の取組みは進んだが、個々の生徒へのアプローチ不足の懸念がある。 ・生徒数減による行事や部活動の停滞が心配された 1 年であった。「参加しようと思う行事がある」(H25:45%→55%)である一方、「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている」の肯定率(H25:67%→57%)であった。教員による企画から生徒が自主的に取組むよう働きかけた結果と考えられる。継続して定着させる必要がある。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職員会議をはじめ各種会議が…」(H25:65%→60%)(H24:53%)、「…次年度の計画に生かしている」(H25:85%→70%)(H24:53%)と下がった。昨年度大きく向上した反動とマツリズムの傾向が出ている可能性があるため、各種会議等の活性化が課題である。 ・「校内研修組織が確立し、…教育実践に役立つ…」(H25:79%→85%)、「各分掌や各学年が有機的に連携し、機能…」(H25:40%→55%)は校内組織の改善を示している。 ・保護者自己診断「授業参観や学校行事に参加したことがある」(H25:53%→64%)は今年度の取組みの成果が出た。しかし、回答数が 11 人と非常に低く、評価を鵜呑み出来ない面もある。 	<p>第 1 回(5/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制独自の課題に対して、着実に成果が表れている。 ・喫煙指導などについて、困難にひるまず、生徒指導を継続することが、学校に対する生徒や地域の信頼を得ることにつながる。 <p>第 2 回(10/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学：体育バスケットで過年度生チーム VS 中卒生チームを見学して定時制高校の特徴が見てとれた。携帯電話指導については指摘注意し続けることが肝要。(生徒はきちんと注意してもらいたいと願っている) ・授業アンケート：生徒は学校について信頼はしている。劣等感の強い生徒に成功体験を積み上げさせる努力が必要。 <p>第 3 回(1/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校する理由は「学校が楽しいこと」友達のできる環境づくりやすべての教員が個々の生徒状況を理解し積極的に声掛けていただきたい。 ・生徒の教員に対する信頼をバックに、もう少し高いレベルを要求することも可能である。 ・体験活動など経験したことを他者に伝えさせる機会を。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力の向上	(1) 基礎学力の向上と資格取得 ア わかる授業作り イ 基礎学力の向上 ウ 資格取得の推進	ア・授業アンケートの活用 ・同僚教員の相互授業見学や他校の公開授業を活用し授業力の向上を図る イ・個に応じた学習指導 ・モジュール授業を応用した授業作り ・ICTを活用した授業の実施 ウ・情報や工業の授業で学んだことを生かし、資格の取得(文書デザイン、情報処理技能、ガス溶接、フォークリフト、アーク溶接、電気工事士、危険物、色彩検定等)を推進し、必要に応じて夏季休業中に講習会を実施	ア・授業振り返りシートの提出 ・授業観察シート年3枚提出 イ・「…学習指導を、個に応じた視点で工夫して…」の肯定率90%以上 ・数学科以外の教科の実施 ・ICT活用科目数 ウ・受験者数延べ40人以上 ・合格率60%以上	・9月11日配布、9月末回収(○) ・シート提出は一部の教員のみ(△) 他校の授業見学報告あり(○) ・桜塚高校定時制への授業見学の実施11名参加。大いなる刺激(○) ・85%(○) ・HR、総合学習を活用した基礎学力講習、百マス計算大会、漢字検定大会の実施(◎) ・ICT:PowerPoint活用程度(△従来並み) ・受験者数延べ44人 ・合格率68%(○)
2 安全で安心な学校づくり	(1) 一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の醸成を図る ア 教育相談体制の確立 (2) 社会の形成者としての自覚と忍耐力と責任感を養い、規範意識を身につけさせる イ 志学、道徳、キャリア教育の実施 ウ 行事や部活動を通して、自己肯定感を高める (3) 中途退学防止、原級留置生徒の減少 エ 不登校生徒への働きかけと授業規律の徹底	ア・教育相談体制の充実:学校生活支援カードを活用し、生徒の自立と社会参加を支援する。 ・ケース会議の開催 ・生徒情報を共有化するための会議開催 イ・喫煙指導の強化(2階女子トイレ等) ・系統的なキャリア教育の実施 ・教育相談や個別の教育支援計画を通じて生徒の進路実現を達成する組織体制の確立 ・地域の清掃活動 ・正規雇用にもかかわらず効果的な自立支援 ウ・生徒数減に対応した文化祭や体育大会の工夫で生徒に活躍の場を与える ・部の統合など、生徒数に応じた部活動の在り方を見直しクラブ活動の活性化を図る エ・入学生の出身中学校訪問や前籍校訪問による早期の生徒理解 ・長欠生徒等に対する粘り強い指導 ・スクール・ジャルナーの活用や大阪市高校就学支援員との連携による生徒理解と支援体制作り ・授業が生徒指導の原点であることを踏まえ、授業規律を徹底する ・上履き指導(体育館シューズの併用不可)	ア・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率70% ・年間15回以上(H25-15回) ・生徒情報交換会を3回実施 イ・喫煙指導件数2割減(H25-55件) ・「将来の仕事について先生と…」の肯定率67% ・卒業生のうち進路未定者数を3人以下 ・支援を要する生徒の就業または訓練率70%以上 ・地域清掃 年3回実施 ・外部組織と連携し、将来的に就職に結びつく支援 ウ・「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている」の肯定率70% ・「参加しようと思うクラブがある」の肯定率50%(H25-43%) エ・当年度入学者の進級率50% ・家庭訪問回数 ・中学校訪問数 ・「授業中は進んで…に取り組んだ」のポイント3・3に ・上履き達成率100%	・66%(○) ・1月16日現在26回(支援委員会の位置づけで実施される場合を含む)(◎) ・4月、10月に実施 3月に実施予定(○) ・校内喫煙の大幅減少(◎) ・32件(大半は校外◎) ・59%(△ 総合的な学習の時間に外部講師による職業別講話を実施するなど、組織的なキャリア教育体制は前進したが、数字は日常的な生徒との会話での不十分さを示している) ・進路未定者2人(○) ・今年度卒業予定者のうち支援を要する生徒1名→職業訓練校(○) ・年3回実施(○) ・企業技術者による実践的指導(○) ・57%(前年比10%減△ 今年度は生徒が自主的に取り組むよう指導したが、教員が企画する行事の方がより楽しいと評価) ・「参加しようと思う行事がある」《H25-45%、H26-55%(◎)》 ・39%(△ 生徒数減に対応できず) ・進級率29%(△) ・家庭訪問70回 ・電話連絡1200回 ・中学校訪問39校 ・ポイント2.9に低下(授業は昨年より落ち着いているが、消極的態度)(△) ・100%(○)
3 学校運営体制の確立と教職員の資質向上	(1) 学校運営体制の確立 ア 学校運営の基本づくりと協働体制の確立 (2) 開かれた学校づくり イ 授業公開 ウ 地域住民や中学生対象に体験教室の実施 エ 魅力あるWebページの作成 (3) 教職員の資質向上 エ 効果的な研修とミドルリーダーの育成	ア・校務の役割分担の明確化と委員会等の整理 ・会議の簡素化・短縮化 ・職員連絡会の定例化 ・校務運用規定の整備 ・校務処理システムの運用面の工夫 イ・年間を通じた授業公開 ウ・地域住民対象にものづくり教室の実施 ・中学生や保護者にわかりやすく魅力のあるWebページ作り ・体育祭や文化祭に保護者の参加 エ・外部研修等を受講した教職員による校内研修の実施 ・スクールカウンセラーおよびスクール・ジャルナーによる研修の実施 ・府教育センター「パッケージ研修」の活用	ア・教員自己診断「職員会議をはじめ各種会議が教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」の肯定率68%(H25-65%) ・教員自己診断「教職員間の相互理解…、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の肯定率68%(H25-65%) イ・保護者等がいつでも見学できる授業公開 ウ・夏季休業中に実施 ・生徒自己診断「ホームページをよく見る」肯定率30%(H25-18%) ・保護者参加数 エ・年間10回以上実施 ・各1回実施 ・生徒向け自己診断「教え方に工夫している先生が多い」肯定率80%(H25-65%)	・内規の見直しに伴い委員会等の統合整理を実施(○) ・職員連絡会(月・木17時)の実施により、職員会議を簡素化(○) ・60%(△ 職員会議が連絡会化し、意見交換の場としては機能していない) ・教務内規や運用方針の見直し・入試選抜業務のマニュアルの見直しの実施(◎) ・校務処理システムは次年度に運用方針の策定予定 ・65%(○ 業務における教職員間の連携は向上) ・授業公開 せめて懇談時に見てくれるよう紹介(△ 一部の保護者にとどまる) ・地域向けサンドブラスト(ガラス)講座の実施(○ 大開女性会の参加) ・見やすいHPづくりを継続 ・生徒自己診断27%(○) ・体育祭で保護者後援会参加種目を新設 ・保護者後援会合わせて10名弱の参加(○) ・拡大版校内初任研の実施(全教員対象) 他校の授業や生徒指導の様子を見学 進路支援、教育課程、授業見学観察シートの作成、担任の持ち方 etc. (◎) ・SSW:2回/SC:1回(◎) ・「パッケージ研修」を活用し、本校の授業スタンダードについて熟議。授業におけるグループ活動の促進 ・61%(△ 生徒の授業態度が改善した結果 新たな授業改善が求められる)